

のあるのは、後に関巻を補うたものであらう。現存巻數五百七十二。八幡寺は天正の頃から一時中絶してゐた爲に、この經は金澤寶藏寺に傳はつたが、明治に至り再び八幡寺に返されたものである。

(二)八幡寺藏一同寺に又別種の大般若寫經折本を有する。それには卷末に版木で、『文曆二年乙未四月廿三日乙酉於八幡大菩薩御寶前供養安置訖。願主阿闍梨眞觀』と刷り込まれてゐる。現存第一七七卷の一帖あるのみである。

(四)總持寺藏一鳳至郡門前の總持寺別院にも、亦古寫大般若經がある。この大般若經は、近時に至るまで六百卷悉く完備し、常に佛殿内に置かれてあつたが、明治三十一年伽藍祝融の災に罹つた時、纔かに方丈にあつた第三百四十九卷・第五百卷・第五百十卷・第六百卷のみを遺したのである。うち第六百卷は最終のものであるから、その奥書はこの寫經の成つた所以を最も詳悉してゐる。即ちこの大般若經は、もと丹波國多紀郡安行庄野間なる蘇宮に屬したもので、康和四年四月十六日その料紙を調べ、四月十九日書寫を開始し、嘉承二年八月廿七日功を竣へた。當時は卷子本であつたが、曆仁二年二月六日西蓮寺の住侶等折つて方本となし、同年^{延應}四月十日之を畢つた。然るにその後轉讀によつて破損甚だしくなつたから、貞治六年修理を加へ、文安四年再び修理したといふものゝやうである。この事が錯雜した順序に書かれてゐるのは、次第に前書の間に書入れたからである。而して第三百四十九卷が應永十七年五月十二日に、第五百十卷が建曆二年十一月十五日に書寫せられてゐる如きは、更に新寫填補したもので

あらう。蘇宮は現に新莊の北部に移り、八幡宮と唱へられるもので、元久年間北條時政の命により勸請したといはれ、又は應永年中喜多村安近の創建とせられるが、この寫經によつて斷ずれば、兩説共に非で、平安朝末期既にその存在したものであらう。

(五)石井毘沙門堂舊藏一これも寫經で、鳳至郡石井毘沙門堂の舊藏に係るものであるが、今第五百五十八卷の零本が世に存し、奥書には『應安七年歲次甲子八月十八日於能州町野庄石井毗沙(門脫)堂如法經所爲興隆佛法一書寫畢。法印明實七十二歲』とある。毘沙門堂は今明らかでない。

(六)金劍宮舊藏一石川郡鶴來金劍宮に舊藏の大般若經は、固よりこの地方の版ではないが、第四十三卷の零本が存し、その奥書に『應永十八年辛卯六月朔日加州白山金劍大神宮住侶權律師超激敬白』と別に刷り込まれてゐる。超激は超衡であらう。

(七)豐財院藏一羽昨郡白瀬豐財院には血書大般若經があつて完本である。↓ケツシヨダイハンニヤキヨウ 血書大般若經。

ダイフ 大阜 加賀の俳人。石の聲みつかなわ。三つが原・其文月・ころ葉等の著者。寛延から明和あたりに京に住し、陰曹散人ともいらた。その傳は明らかでない。

ダイフタジ 大福寺 羽昨郡富木院に屬する部落。邑名は大福寺があるによる。

ダイフタジ 大福寺 羽昨郡大福寺村なる高爪神社の別當で、眞言宗に屬し、金龍山蓮華光院大福寺と號し、慶安三年前田利常から寺領二十石を寄進した。この寺は今廢して存せぬ。能登名跡志に、『昔は七堂伽藍の寺、

大寶年中泰澄大師開基の大地にて、富木院は不殘社領なりしといへり。其時鳥居ありし所を、今も大鳥居村といふ。中比まで五十餘坊ありして、今も百姓に學仙房・寶泉房などとして有。何れも兵亂に退轉せし由。』と記する。大福寺が衰微したことに就いては、元祿十年諸宗退轉書上帳に、『羽昨郡富木大福寺村寶泉坊・養性坊・上之坊・灌頂坊・伊豆坊・西之坊・南之坊・客泉坊・眞如坊・東之坊・座主坊、右十一ヶ寺退轉子細且年號等不相知。』といひ、寶永元年一覽記には、『大福寺といふは惣名にて、今一字殘れる寺は北之坊といふともある。↓タカツメジンジャ 高爪神社。

ダイヘイジ 太平寺 イタヘ 石川郡林郷に在る部落。邑名は大平寺があつたから起り、元祿十五年前は大平寺と書いた。郷村名義抄に、古へ富樫氏の一族泰平といふものゝ位牌所泰平寺があつた爲に泰平寺村といふたのが轉じたのだとあり、龜尾記に、太平寺村にあつた寺院は太平寺で、曹洞宗に屬し、明心の開基であつたが、後大和に移つたとするものは皆誤である。龜尾記にはまた今この地に大乘寺の開山徹道の灰塚があると記してゐる。

ダイヘイジ 大平寺 石川郡に在つた。應永五年八月十五日附明峰和尚法弟十二派連判狀に『加賀石河大平寺開山不惜立位』とあるも是で、後の邑名大平寺はそれから起る。

ダイヘイジカイドウ 太平寺街道 タヘイジ 石川郡太平寺から下林・清金・木津・三反田を經、三口の渡を越し、寺井から小松に出る街道を太平寺街道といふ。俗に坊主殺しとも呼ばれる。

ダイヘイジノセキシヨ 太平寺野關所

ダイホウ 大峰 羽昨郡八幡眞宗東派法雲寺の僧。最も説教に長じた。寛政二年十月二十四日寂、享年不詳。法名欲生庵。

ダイボウ 大坊 ボイ 珠洲郡若山庄に屬する部落。元祿十四年の郷村名義抄に、『往古此所に眞言宗十二坊有之、大地に候由。何比か右坊不殘退轉。其時跡に村立出來に付、大坊村と申由申傳候。』又能登誌に『大坊に正福寺といふ淨土眞宗あり。むかし天台宗にて、山號を般若山といへり。其時の什物品々今に傳來す。』と見える。

ダイボウガハ 大坊川 ダイボ 珠洲郡大谷嶺山から流れ出で、大坊嶺で飯田川に合する。水源から落合まで流程四軒五許。

ダイマ 太間 鹿島郡能登島なる饅目の百姓。祖先當摩太郎教員は寛元中こゝに移住したといふ。前田利家の頃には當主を太間といひ、天正十三年畠山氏から興へられた扶持高四拾參俵貳斗七升を還し、十六年十月歿した。二代太間は慶長九年十村役となり、寛永九年之を辭し、明曆元年二月歿。三代太間は寛永十年正月から承應元年まで十村を勤め、寛文五年九月歿。四代太間承應元年十村となり、

タイイジノ 石川郡太平寺(部落名)の地は、昔松任に丹羽長重が在城した頃、前田利家の所領との境であつた爲、こゝに關所を居る、前川千之助(百八十石)をして之を守備せしめてあつた。

タイヘイヤマ 大平山 タイヘ 羽昨郡二ツ屋の西方海岸に在る砂丘。高さ四七米。地質沖積層。

タイヘキジ 帶壁寺 ↓タテカベジ 帶壁寺。

ダイホウ 大峰 羽昨郡八幡眞宗東派法雲寺の僧。最も説教に長じた。寛政二年十月二十四日寂、享年不詳。法名欲生庵。

ダイボウ 大坊 ボイ 珠洲郡若山庄に屬する部落。元祿十四年の郷村名義抄に、『往古此所に眞言宗十二坊有之、大地に候由。何比か右坊不殘退轉。其時跡に村立出來に付、大坊村と申由申傳候。』又能登誌に『大坊に正福寺といふ淨土眞宗あり。むかし天台宗にて、山號を般若山といへり。其時の什物品々今に傳來す。』と見える。

ダイボウガハ 大坊川 ダイボ 珠洲郡大谷嶺山から流れ出で、大坊嶺で飯田川に合する。水源から落合まで流程四軒五許。

ダイマ 太間 鹿島郡能登島なる饅目の百姓。祖先當摩太郎教員は寛元中こゝに移住したといふ。前田利家の頃には當主を太間といひ、天正十三年畠山氏から興へられた扶持高四拾參俵貳斗七升を還し、十六年十月歿した。二代太間は慶長九年十村役となり、寛永九年之を辭し、明曆元年二月歿。三代太間は寛永十年正月から承應元年まで十村を勤め、寛文五年九月歿。四代太間承應元年十村となり、

タイイジノセキシヨ 太平寺野關所